

事業所名

発達支援センターコメント2

支援プログラム（参考様式）

作成日

6年

12月

21日

法人（事業所）理念		小集団療育を中心とした子供たちと職員の相互作用による適応していくことへの推進。					
支援方針		<p>【1】発達特性に応じた支援（1. 構造化を含む視覚支援の導入。2. コミュニケーションに関する具体的なアプローチ。3. 行動上の問題に対するABA等理論的な視点でのアプローチ。4. 集団の中での個別を重視した介入。5. 小集団中心とした集団力動の応用）</p> <p>【2】丁寧な保護者支援（1. 様々なテーマでの保護者学習会の実施。2. 個別の発達相談の実施。）</p> <p>【3】支援者支援（1. 幼稚園、保育園等への支援方法などの共有や助言。）</p>					
営業時間		8時	30分	17時	0分	送迎実施の有無	あり なし
支援内容							
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の健康状況を把握し、生活リズムを整えることや健康に過ごせるよう活動を計画し提供致します。</li> <li>ADLの自立(着替え、排泄)は年齢や状況に応じ、保護者からの情報提供を得て自立に向けた取り組みを行います。</li> <li>身体的活動を通して、生活に必要な基本的技能の向上に繋がっていきます。</li> </ul>					
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や運動、動作の改善および習得、筋力の維持向上を図ります。</li> <li>楽しく活動ができるように屋内、屋外の活動を取り入れ、場面や季節に合わせた活動を行い経験を広がっていきます。</li> <li>感覚統合等を用いた、5感などの感覚を十分活かせるよう必要に応じた遊びを工夫し支援します。</li> </ul>					
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊びや活動の中で、それぞれの認知特性を理解しながらこだわりや偏食などに対し、個々に応じた支援をします。</li> <li>環境設定や理解しやすい声かけなどにより、視覚・聴覚・触覚などを十分活用し気持ちや感情の調整ができるように支援を行います。</li> <li>視覚支援や構造化、ABA等の理論に基づき、子ども自身の自発的で適切な行動を引き出せるよう介入し、アプローチをしていきます。</li> </ul>					
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちや職員、周りの大人とのかかわりの中で感情を豊かに育て、意思を伝えられるように支援します。</li> <li>相手へ伝えようとする意欲を大切に、言葉だけでなく様々な手段(絵カードでの表出や発声、指差し、身振りなど)で相手へ伝える方法を身につけられるよう支援します。</li> <li>お友達との相互作用を通して、相手と同じものに注意を向け、相手の行動や気持ちを理解できるよう様々なツール(コミック会話、表情カード等)を活用しながら支援します。</li> </ul>					
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> <li>安心できる大人との2者間で関係性を作ることから始め、周囲の状況変化を捉え、人や物への興味・関心・伝えること重要性の理解へと繋がります。</li> <li>遊びや活動の中で、ルールや順番の理解など、周りの状況に気づき行動につながるよう支援します。</li> <li>遊びや活動を通して楽しい経験を重ねながら、社会性、対人関係の育ち、芽生えを支援します。</li> </ul>					
家族支援	様々なテーマでの保護者向けの学習会・懇談会(ピアカウンセリングも含め)の実施や発達に関する個別相談の実施。家族通所を通し、個人の特性に応じた対応方法についての指導助言。レスパイトを含めた保護者への共感・受容。				移行支援	周囲の幼稚園や保育園、小学校との連絡・連携を実施。(就学に向けての調整や個人の特性に応じた対応の仕方の検討など)	
地域支援・地域連携	保育園、こども園、幼稚園、小学校、保健センター、教育委員会、児童発達障支援センター等との連携及び情報共有。				職員の質の向上	定期的な研修の実施と参加。 他の事業所との公開療育への参加と意見交換。 児童発達支援管理責任者の取得研修の斡旋及び研修費補助の規定。	
主な行事等		社会体験や社会見学。季節行事の実施や遠足。					